

平成30年度学校評価報告書

平成30年3月12日

北海道佐呂間高等学校長 古瀬 径 二

次のとおり平成30年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 社会で生きる力の育成 ～これからの社会を生き抜くための知識・人間性・体力の向上～ ア 基礎的な知識・技能の定着と思考力、判断力、表現力等の総合的な学力を育成する。 イ 主体的に学び、課題を見つけ、他者とともに解決していこうとする意欲や姿勢を育成する。 ウ 豊かな人間性、充実した人生の基盤となる健やかな身体、体力を育成する。
(2) 自己を実現する力の育成 ～キャリア教育の視点に立った進路指導の充実～ ア 職業理解を促し、主体的に自己の進路選択と進路実現をできる能力を育成する。 イ 社会人として自己を律し、心身ともに自立できる能力を育成する。 ウ 多様化した生徒の個性伸長と進路実現に向けて、教育体制の充実を図る。
(3) 積極的な生き方のできる人間の育成 ～生徒の意欲を喚起する機会の拡充～ ア 特別活動や部活動の充実を図り、健康でたくましい心身と豊かな感性を育む。 イ 体験的な学習活動を通して、価値観や社会性を育み、社会とともに生きる自覚を養う。
(4) 学校教育をとおしたよりよい社会の実現に向けて ア 学校内外で良好な人間関係を築く力を育成する。 イ 地域の教育資産の活用や町内小中学校との連携の充実を図る。 ウ 地域関係特例校における教育活動の充実を図る。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	・一人ひとりの生徒を大切にしようと全員が努力している。一方で個々の課題に追われている感が強く、全体を見わたすようなゆとりが必要である。	・今年度の部局活動実績に象徴されるように、進路等でも目ざましい成果があり、生徒に対して良い影響となることが期待できる。
改善方法	・育成を目指す資質、能力を明確にし、地域社会と連携、協働して開かれた学校づくりを実現していく必要がある。	
学習指導	・工夫次第では生徒の学習に対する意欲がより向上するので、自身の教材研究の向上や、他教科との連携等で改善する必要がある。	・生徒が自ら家庭学習に取り組み、課題に対して探究心を持って活動するような指導や工夫が必要である。
改善方法	・個に応じた学習指導の展開と、きめ細かな指導を継続し、主体的・対話的で深い学びの推進を図る必要がある。また、遠隔システムの活用など、各教科で創意工夫ある授業を促進し、生徒の学習意欲向上を図っていく必要がある。	
生徒指導	・自分たちから行動し、自ら律する態度が随分できていくように思える。 ・教育相談活動を充実させる必要がある。	・社会に出ることの意味、社会人としての意義を見いだすことができる教育を望む。 ・自分たちの力で何とかしようとする力を身につけて欲しいと感じる。
改善方法	・生徒の実情に応じた対応について、適切な働きかけを行う必要がある。また、スマートフォンの使用について改善する必要がある。 ・少人数でも活躍の場を与えられるような教育活動を推進していく必要がある。	
進路指導	・若い教員集団の良さを発揮して『生徒とともに経験しながら学ぶ』という視点を大切にすべき。学年団を基本として方向性が見える議論を積み重ねる努力が必要である。	・安易に確実な進路を示すのではなく、挑戦させる勇気を持たせることも大切である。 ・進路指導では出来るだけ多くの時間をかけて面談をしてもらえるとありがたい。
改善方法	・若い教員集団の良さを発揮して「生徒とともに学ぶ」という姿勢を大切にすること。 ・保護者との連携が充実する体制を構築し、的確な意思疎通を図る必要がある。	
公表方法	・本校ホームページの活用や各種会議等、多くの場面で説明する。	